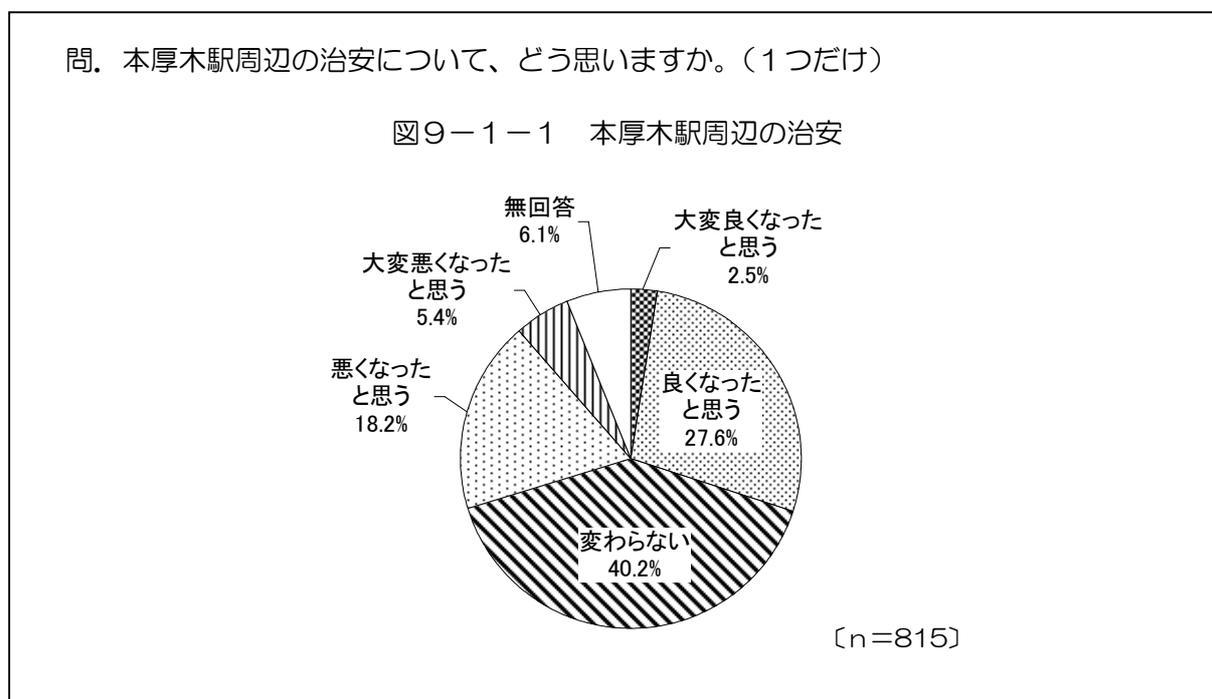


9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A：問 22)



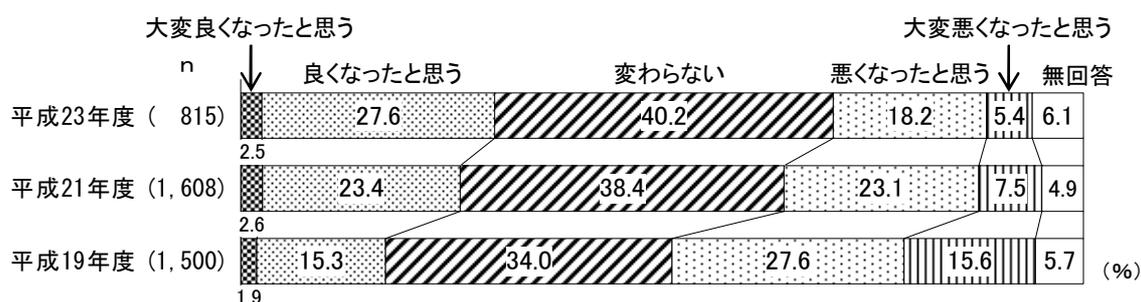
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなったと思う」(2.5%)と「良くなったと思う」(27.6%)を合わせた『改善派』(30.1%)が3割となっている。一方、「悪くなったと思う」(18.2%)と「大変悪くなったと思う」(5.4%)を合わせた『悪化派』(23.6%)は2割程度となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、『改善派』が増加傾向にあり、前回調査より4.1ポイント高くなっている。一方、『悪化派』が減少傾向にあり、前回調査より7.0ポイント低くなっている。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

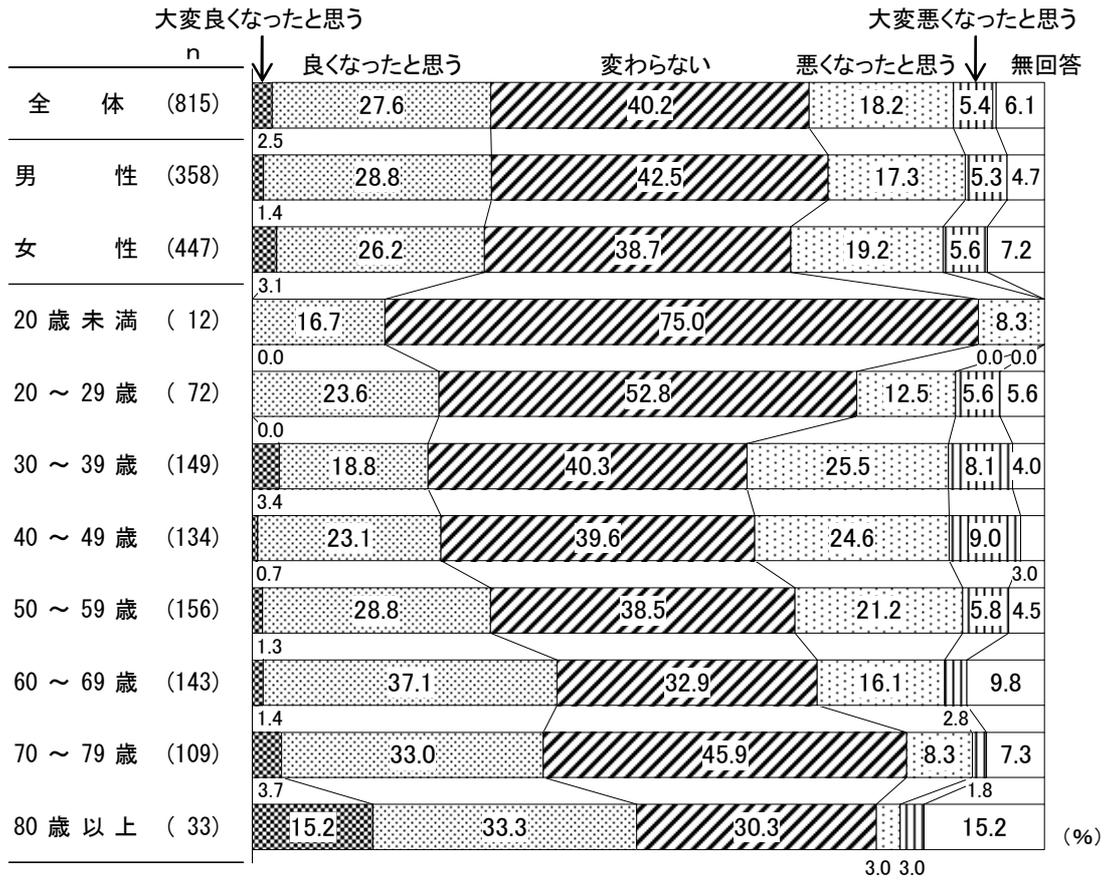


【属性別】

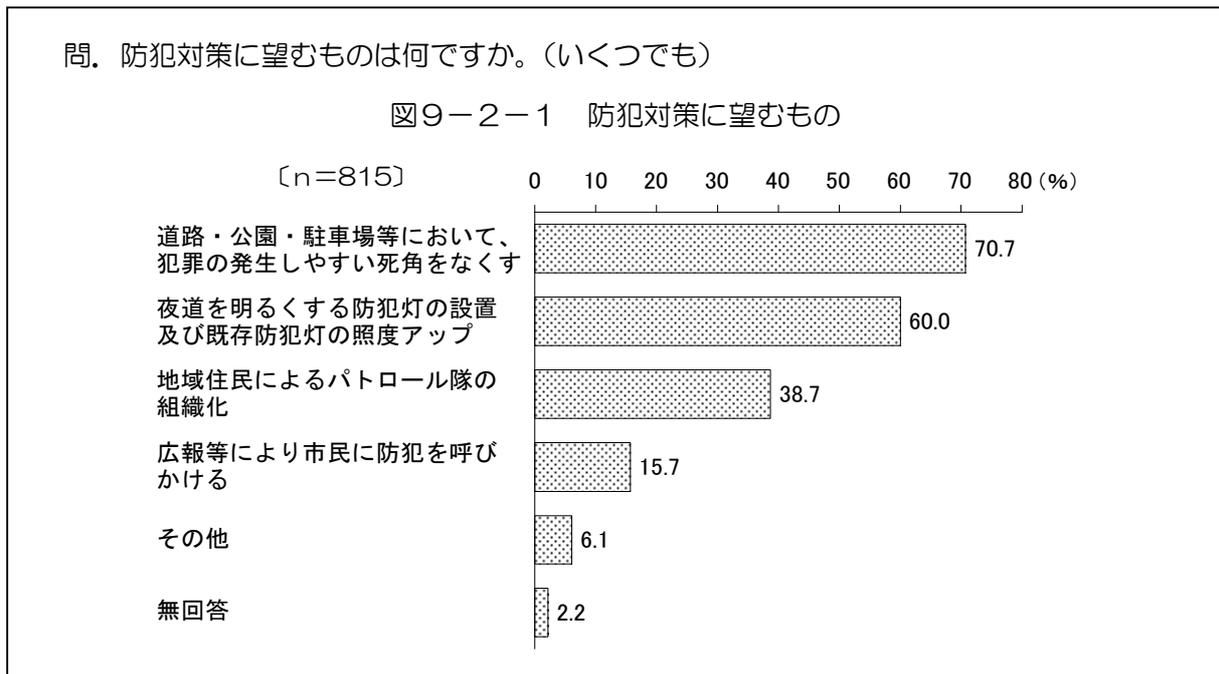
性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、30歳代と40歳代で『悪化派』が『改善派』を上回っている。一方、20歳代以下と50歳代以上では『改善派』が『悪化派』を上回っている。

図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に望むもの（A：問23）



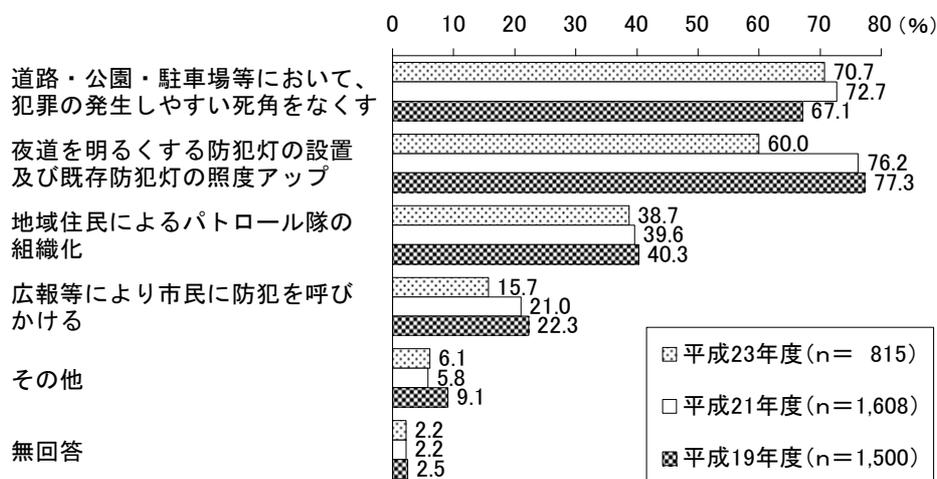
【全体】

防犯対策に望むものについて聞いたところ、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」（70.7%）がほぼ7割で最も高くなっている。次いで、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」（60.0%）、「地域住民によるパトロール隊の組織化」（38.7%）、「広報等により市民に防犯を呼びかける」（15.7%）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」が前回調査より16.2ポイント低くなっている。また、「広報等により市民に防犯を呼びかける」が減少傾向にあり、前回調査より5.3ポイント低くなっている。

図9-2-2 防犯対策に望むもの一経年変化（複数回答）



(注)「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」は、前回調査までは「夜道を明るくする防犯灯の設置」となっている。

【属性別】

性別にみると、女性で「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(64.4%)が男性より9.7ポイント高く、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(74.7%)が男性より9.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代で「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(77.6%)が8割近くで他の年代より高くなっている。また、30歳代で「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(68.5%)が7割近くで他の年代より高くなっている。

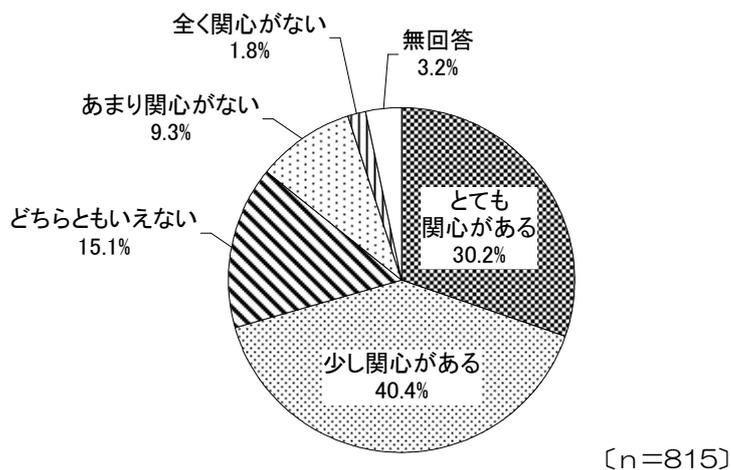
表9-2-1 防犯対策に望むもの一性別、年齢別（複数回答）

			道にし 路おや ・いす 公園、 ・犯角 ・駐罪を 車のを 場発 等生	夜灯の 道のを を設照 明置度 る及ア くびッ す存 防防 犯犯	地口 域― 住ル 民隊 にの よ組 る織 パ化 ト	広防 報犯 等を に呼 よび かけ るに	そ の 他	無 回 答
		n						(%)
全 体		815	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
性 別	男 性	358	65.6	54.7	37.4	16.5	9.5	2.0
	女 性	447	74.7	64.4	39.8	15.4	3.4	2.2
年 齢 別	20歳未満	12	66.7	58.3	33.3	-	-	-
	20～29歳	72	59.7	58.3	38.9	9.7	13.9	4.2
	30～39歳	149	75.8	68.5	36.9	13.4	2.0	0.7
	40～49歳	134	77.6	61.2	35.8	11.9	5.2	0.7
	50～59歳	156	69.9	55.8	38.5	20.5	8.3	2.6
	60～69歳	143	67.8	59.4	40.6	15.4	9.1	1.4
	70～79歳	109	69.7	56.0	42.2	22.0	0.9	5.5
80歳以上	33	57.6	54.5	42.4	21.2	9.1	3.0	

(3) セーフコミュニティの考え方 (A: 問 24)

問. 市民と行政が協働して、平成 22 年 11 月 19 日にセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯など安心安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。(1つだけ)

図9-3-1 セーフコミュニティの考え方



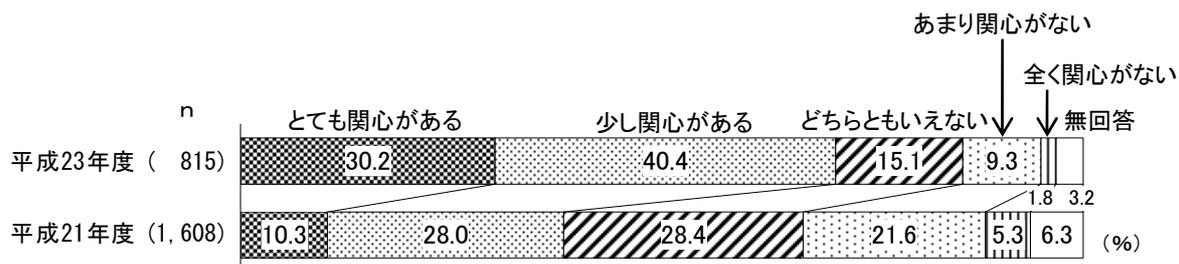
【全体】

セーフコミュニティの考え方について聞いたところ、「とても関心がある」(30.2%)と「少し関心がある」(40.4%)を合わせた『関心がある』(70.6%)がほぼ7割となっている。一方、「あまり関心がない」(9.3%)と「全く関心がない」(1.8%)を合わせた『関心がない』(11.1%)は1割程度である。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、『関心がある』が 32.3 ポイント高くなっている。一方、『関心がない』は 15.8 ポイント低くなっている。

図9-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

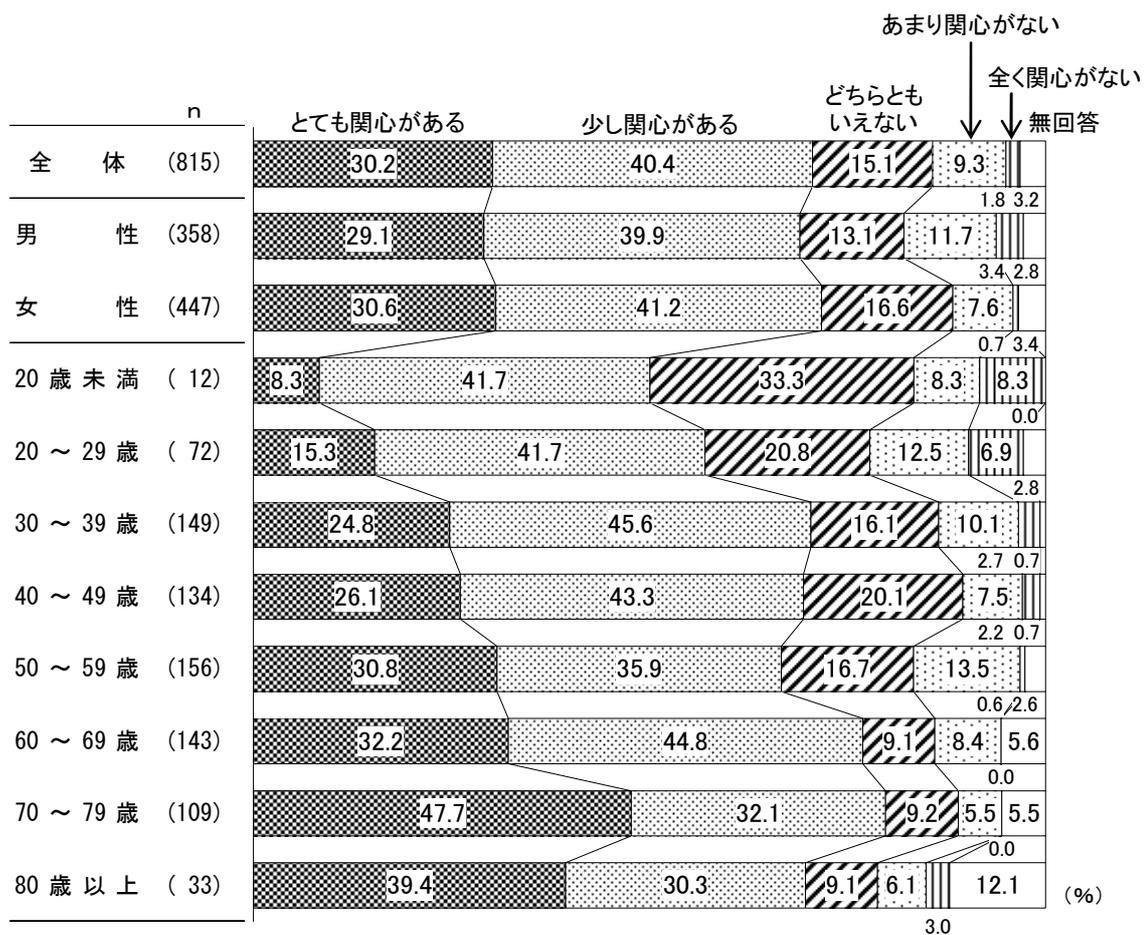


【属性別】

性別にみると、男性で『関心がない』（15.1%）が女性より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『関心がある』は70歳代（79.8%）で8割、60歳代（77.0%）で8割近くと他の年代より高くなっている。一方、『関心がない』は20歳代（19.4%）でほぼ2割と他の年代より高くなっている。

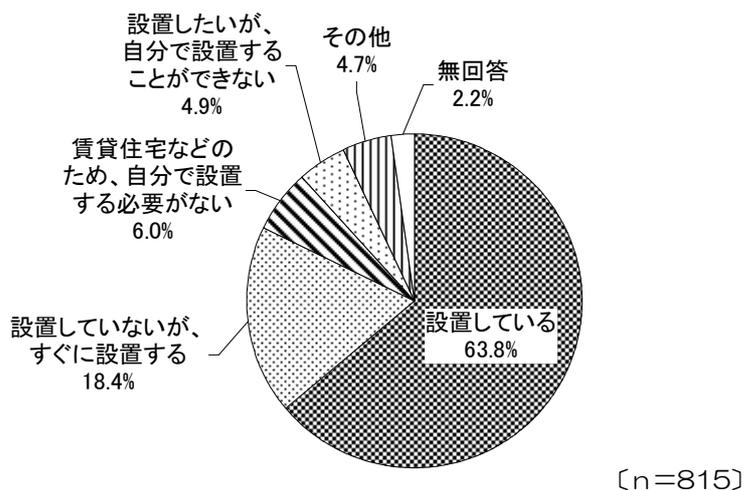
図9-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別



(4) 住宅用火災警報器の設置 (A: 問 25)

問. 平成 18 年 6 月 1 日からすべての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。
(なお、既に建てられた住宅は、平成 23 年 5 月 31 日で猶予期間が終了しています。)
(1 つだけ)

図 9-4-1 住宅用火災警報器の設置



【全体】

住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(63.8%)が6割を超え最も高く、「設置していないが、すぐに設置する」(18.4%)が2割近くとなっている。一方、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(6.0%)と「設置したいが、自分で設置することができない」(4.9%)がそれぞれ1割未満となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるために参考としての掲載となるが、「設置している」は増加傾向となっている。

表 9-4-1 住宅用火災警報器の設置—経年変化

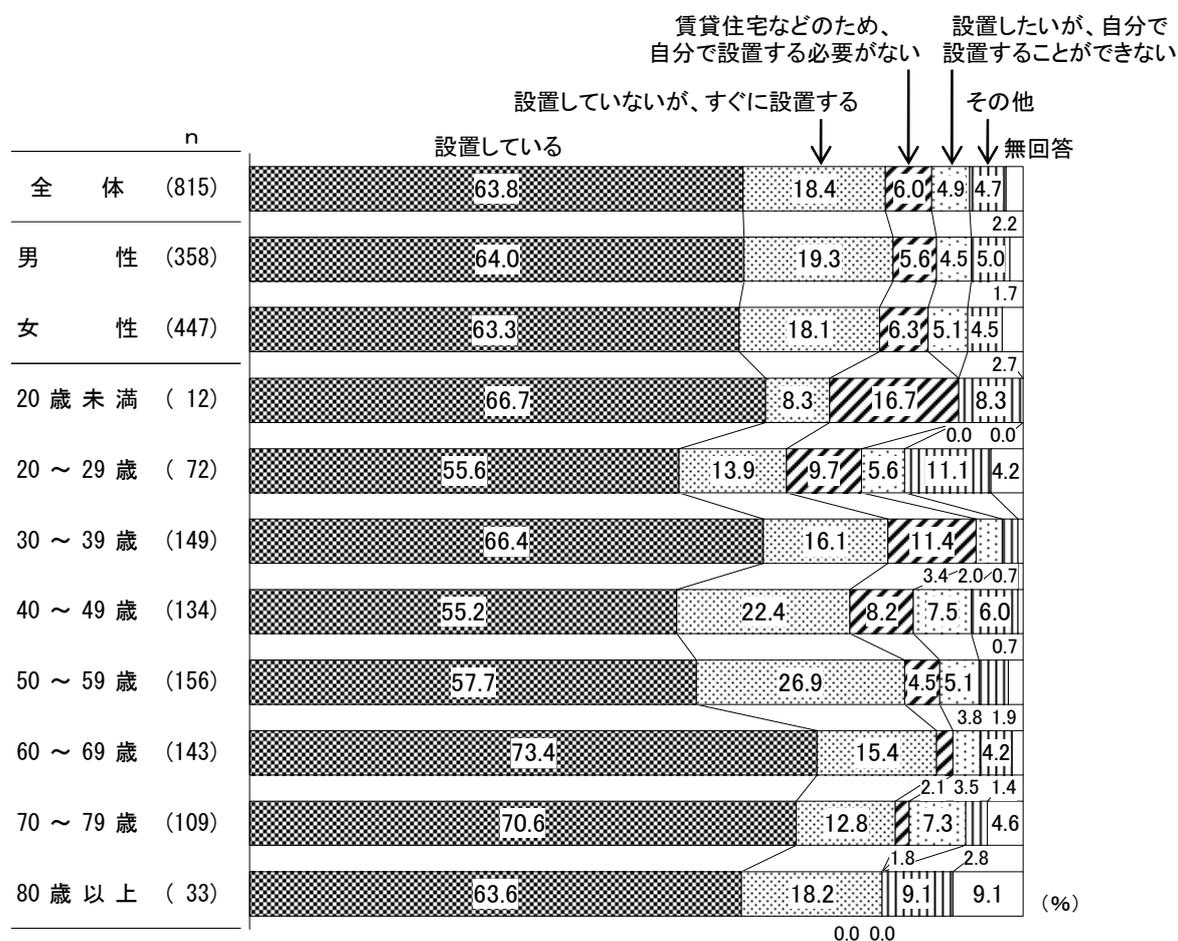
順位	平成23年調査 (n=815)		平成21年調査 (n=1,608)		平成19年調査 (n=1,500)	
	設置状況	割合 (%)	設置状況	割合 (%)	設置状況	割合 (%)
1	設置している	63.8	設置している	37.9	設置していないが、平成23年5月31日までの猶予期間中に設置する	39.9
2	設置していないが、すぐに設置する	18.4	設置していないが、平成23年5月31日までの猶予期間中に設置する	37.6	設置している	24.5
3	賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない	6.0	設置していないし、設置する予定もない	12.4	設置していないし、設置する予定もない	22.6
4	設置したいが、自分で設置することができない	4.9	設置していないが、すぐに設置する	3.2	設置していないが、すぐに設置する	1.9

【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、60歳代で「設置している」(73.4%)が7割を超え他の年代より高く、50歳代で「設置していないが、すぐに設置する」(26.9%)が3割近くで他の年代より高くなっている。また、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

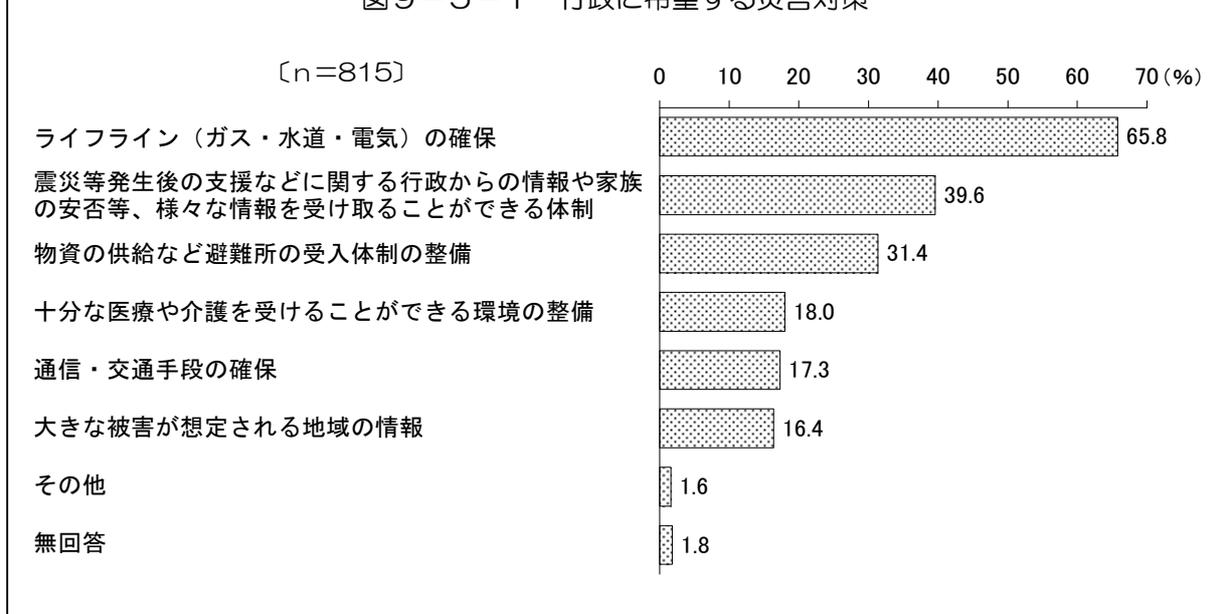
図9-4-2 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別



(5) 行政に希望する災害対策（A：問 26）

問. 平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、厚木市でも強い揺れを観測しましたが、今後、災害の発生に備えて、あなたは行政にどのような対策を望みますか。
（2つまで）

図9-5-1 行政に希望する災害対策



【全体】

行政に希望する災害対策について聞いたところ、「ライフライン（ガス・水道・電気）の確保」（65.8%）が6割半ばで最も高くなっている。次いで、「震災等発生後の支援などに関する行政からの情報や家族の安否等、様々な情報を受け取ることができる体制」（39.6%）、「物資の供給など避難所の受入体制の整備」（31.4%）、「十分な医療や介護を受けることができる環境の整備」（18.0%）となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

居住地区別にみると、緑ヶ丘で「ライフライン（ガス・水道・電気）の確保」（87.0%）が9割近くで他の居住地区より高くなっている。また、森の里で「十分な医療や介護を受けることができる環境の整備」（32.0%）が3割を超え他の居住地区より高く、玉川で「通信・交通手段の確保」（33.3%）が3割を超え他の居住地区より高くなっている。

表9-5-1 行政に希望する災害対策—居住地区別（2つまでの複数回答）

		(%)									
		n	ライフライン（ガス・水道・電気）の確保	震災からの発生後や支援助などに関する行政からの情報を受け取る支族の安否等、様々	情報を受け取る支族の安否等、様々	物資の供給など避難所の受入体制の整備	十分な医療や介護を受けることができる環境の整備	通信・交通手段の確保	大きな被害が想定される地域の情報	その他	無回答
全 体		815	65.8	39.6	31.4	18.0	17.3	16.4	1.6	1.8	
居住地区別	厚 木 北	76	71.1	43.4	34.2	11.8	18.4	13.2	-	2.6	
	厚 木 南	43	62.8	30.2	37.2	16.3	16.3	23.3	2.3	2.3	
	依 知 北	63	63.5	46.0	38.1	17.5	14.3	9.5	1.6	3.2	
	依 知 南	47	66.0	34.0	34.0	27.7	8.5	14.9	4.3	-	
	睦 合 北	35	71.4	42.9	28.6	20.0	22.9	8.6	-	-	
	睦 合 南	64	70.3	39.1	28.1	23.4	15.6	10.9	-	4.7	
	睦 合 西	27	59.3	48.1	40.7	11.1	11.1	11.1	-	3.7	
	荻 野	104	65.4	36.5	26.9	20.2	19.2	19.2	4.8	-	
	小 鮎	57	75.4	33.3	21.1	21.1	22.8	24.6	1.8	-	
	南 毛 利	138	60.9	40.6	34.8	13.8	14.5	23.2	1.4	1.4	
	南 毛 利 南	38	65.8	42.1	31.6	21.1	15.8	15.8	-	-	
	玉 川	21	47.6	42.9	28.6	23.8	33.3	9.5	4.8	-	
	相 川	46	60.9	43.5	30.4	13.0	19.6	19.6	-	2.2	
	緑ヶ丘	23	87.0	39.1	26.1	13.0	13.0	8.7	-	4.3	
森の里	25	60.0	32.0	32.0	32.0	28.0	4.0	-	4.0		